

ポスター発表-4

「島しょの高校生の海洋についての意識及び行動について」

千葉 勝吾 様 (東京都立八丈高等学校)

島しょの高校生の海洋についての意識及び行動について

東京都立八丈高等学校

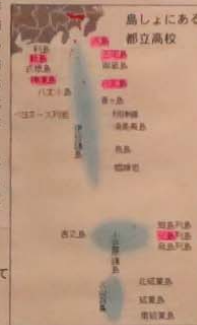
〇はじめに

都立八丈高校では、2016年より海洋教育バイオアースクールに採択され海洋教育を推進し、2017年からは都立小笠原高校と連携して、この間、相互訪問による海洋教育学習などの事業をおこなうとともに、東京諸島7校の代表生徒による島しょ高校生サミットなどを実施してきました。

今回、総括として聞き取りで海洋教育の取り組みにともなう海洋に対する意識の変化と質問紙による内地の高校生との比較を実施しました。

〇調査方法

- ・シート分析 八丈高校の生徒に対して取り組みの前で聞き取り及び、ワークシートの記入内容の分析をおこない比較検討した。
- ・質問紙調査 東京都の島しょの高校7校と東京の臨海部にある高校2校に対して、集合式自記式により質問紙調査をおこなった。質問紙は2014年に(公財)日本海事センターにより実施された「海に関する国民意識調査2014」の質問項目の一部に海洋教育についての質問項目を加え実施した。
- ・海洋教育事業での高校生の行動観察シート分析は2016~2018年の1年生全員、質問紙調査は島しょ部の高校生600名と内地(東京)の高校生200名を対象として実施。行動観察聞き取りは生徒20名に対して実施した。



〇調査結果

- ① 島しょの高校生にとって海洋は日常
個人差はあるものの、海洋とのかかわりは保育園、小学校時代から日常であった者の割合は高く、生活の一部といった意識形成がなされている。一方、高校生になると海はいつでも行けるしもう飽きたという意識も生まれ、接触機会が減少する傾向も見られた。「小学生までは海によく行ってたけど、今は全然いかない!」1年男
「海で遊ぶ回数減ったけど、身近だし嫌いじゃないです。」1年女
- ② 海といえば聖海(島周辺の近海)
島しょの高校生にとっては、海洋といえば島のまわりの聖海という認識が強く、伊豆諸島・小笠原諸島の島名は知っていても世界の海洋や港湾、海洋汚染などの世界的な課題に関する関心は相対的に低い。「小笠原に来て同じ海でも全く違うことがわかったし、海は世界につながっていることと交流の歴史から知りました」交流参加者
「海浜清掃は小学生からやってきたけど、それが清掃活動になって世界的な環境汚染データベースの役に立つということに驚いた!」1年男
- ③ 海についての消極的な行動

島しょの高校生の最大関心事は、内地(都会)で上手くやっていけるかであり、島民としての海洋環境の保全や具体的な行動など地域に対する積極的な意識はそれほど高くないことが示された。「遠慮が一番心配だし、そもそも内地でやっているの不安、外のことを知るのが大変だし、やらなきゃいけないと思う。」「自然や景色はいいから、観光客もPRすれば来ると思うし、やれることもないと思う。」

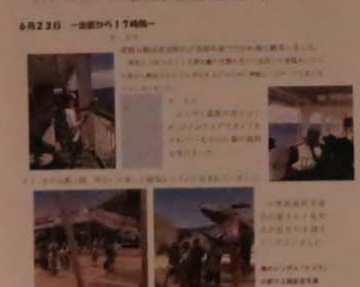
〇考察

島しょは海洋は身近な存在だが、島しょ近海以外の海洋やグローバルな海洋問題からは逆に疎遠。今後の島しょにおける海洋教育においては、グローバルな視点でのアプローチが必要だと考える。

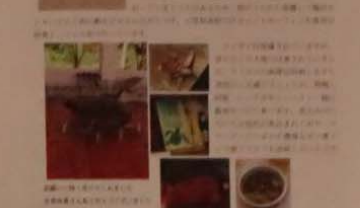


都立小笠原高校との交流事業報告

都立小笠原高校との交流事業報告
6月24日 世界自然遺産と自然環境
6月23日 一泊旅行から17時間



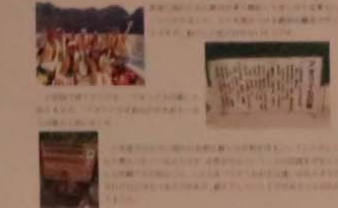
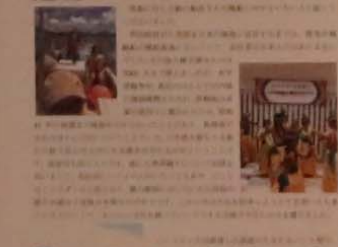
小笠原の自然環境を学ぶ



6月24日 世界自然遺産と自然環境



小笠原の文化



2018/12/07